

第2製パン工場公開株式会社（ペルミ）の技術確認書

回転ラック式オーブン「Musson-rotor super」： グリースの炭化（コーキング）なし、 グリース交換のための停止不要

第2製パン工場公開株式会社・技師長N.I.コストロフ、機械設備保全責任者A.L.テテノフ、機械保全担当者Ya.P.リャリン・XADOコーポレーション代表者A.V.ヤコヴレフ

ペルミ（ロシア）・XADO-Region有限責任会社（モスクワ）との2004年7月26日付契約書第1号・試験期間：2004年9月2日～12月1日

製品

XADOグリース「Termolyub-300」
高温用グリース

試験対象

回転ラック式オーブン「Musson-rotor super」
焼成室のキャリッジの支持軸受部（軸受No.1210、No.210）

文書の種類

技術確認書
署名・押印付き

設備	部位	運転条件	評価項目
回転ラック式オーブン「Musson-rotor super」	焼成室のキャリッジの支持軸受部、軸受No.1210、No.210	180～200 °C、30 min ⁻¹	保守間隔、すべり接触部と転がり接触部の状態

オーブンは製パン工場の通常の生産条件で運転した。軸受部の分解・交換は行っておらず、変更したのはグリースのみである。

主な結果

↑ **3.75×**

軸受部の保守間隔、200 → 750 h

軸受部の保守：所定のグリースとXADOグリース

測定項目	「TsiATIM 201」（所定のグリース）	XADO「Termolyub-300」
グリースを除去し新たに封入するまでの間隔	200 h	750 h、グリース交換の必要なし
グリース交換1回あたりのオープンの停止時間	2 h	停止の必要なし
運転後のすべり接触部	グリースの炭化あり、交換ごとにカーボン除去	炭化の痕跡なし

200 hの間隔と2 hの停止時間は、事業所の所定の保守規程による。750 hは、点検までの軸受部の実際の運転時間である。

1回のグリース封入で実施した点検

点検	封入後の運転時間	軸受部の状態
1回目	750 h	焼成室のキャリッジの円滑な回転、炭化の痕跡なし、転がり接触部は平滑で金属セラミック皮膜に覆われた状態（XADO効果）
2回目	さらに750 h	軸受部は運転可能な状態、グリース交換不要

グリースは2004年9月2日、定期の保守点検時に封入した。点検と点検の間、軸受部の保守は実施していない。

事業所の試験委員会の結論

試験前、キャリッジの支持軸受部は**180～200 °C**で所定のグリース「TsiATIM 201」を使用して運転していた。グリースが炭化するため、**200 h**ごとにオープンを**2 h**停止し、カーボンを除去して新たにグリースを封入していた。XADOグリース「Termolyub-300」への切替え後、**750 h**の時点で軸受部を点検したところ、炭化はなく、転がり接触部は金属セラミック皮膜に覆われており、グリース交換は不要であった。さらに**750 h**後の2回目の点検でも、軸受部は同じ封入グリースのまま運転可能な状態を保っていた。技術確認書の結論：1. XADOグリース「Termolyub-300」は、高温で運転されるすべての部位への適用が妥当である。2. オープンの毎週の停止に伴う経済的損失が解消される。3. 軸受部の寿命が延びる。

XADO

© XADO. 無断転載禁止。
本結果は、回転ラック式オープン「Musson-rotor super」の支持軸受部を180～200 °C、30 min⁻¹で運転した条件におけるものである。他の部位や運転条件では測定値が異なる場合がある。第2製パン工場公開株式会社の署名・押印付き技術確認書の原本は全文を公開しており、ダウンロードできる。